

コロナの感染が拡大し、収束の見通しが見つからない中にある私たちは、知らず知らずのうちに「あいまいな喪失」の中に置かれています。「あいまいな喪失」とは、「確かに大切なものが失われているけれど、いつ、どのようにして、それが失われたのかははっきりしない喪失」を意味します。例えば、コロナの感染により、学校やお店がお休みになり、マスクをしなければ外出ができない中で、いつの間にか私たちの日常は大きく変わりました。「これまでの日常」を失ったわけですが、それはあまりに突然のことでした。また目に目えないコロナによるものであり、これがいつまで続くのか分かりません。このような「あいまいな喪失」の中に置かれている私たちの不安は、高くなりやすいと言われていています。

この状況の中、私たちは、どのようなことを心がける必要があるのでしょうか。その一つは、いつも以上に、「互いを気にかける（ケアする）」ことです。そして、人をケアする、気にかける基本は、「人の話に耳を傾けること」、つまり、「聴くこと」です。「人の話を聴く」ということは、だれかに、「あなたのことを大切に思っています」というメッセージを伝えることでもあるのです。「なんだ、そんな当たり前のことか」、と思われるかもしれませんが、「人の話を聴く」というのは、それほど簡単なことではありません。人の話を聴くために、私たちは自分の都合や用事を横に置き、自分の時間を相手のために差し出さなくてはならないからです。

鷲田清一さんは、「『聴く』ことの力」の中で、次のように書いています。「誰でも、自分が好きな人、あるいは大切と思う相手に対しては時間を割くのをいとわな一方、そうでない相手に対しては時間を過ごすのを極力減らそうとする。こうしたことから考えると、ケアとはその相手に「時間をあげる」こと、と言ってもよいような面をもっている。あるいは、時間を過ごす、ということ自体が一つのケアである。」一緒に時間を過ごすこと、そして、相手の話に耳を傾けることは、人と人とが互いを大切にするための基本なのです。

「ソーシャルディスタンス」の必要性が高まる中であるからこそ、より一層、注意深く、工夫しながら、人をケアすること、人の話に耳を傾けることが大切なのではないかと思えます。家族の中で、友達同士で、互いの話を聴く時間を作ってみるのはいかがでしょうか？



スクールカウンセラーの勤務日

6月1日(火)、6月14日(月)
6月22日(火)、6月29日(火)
7月5日(月)、7月13日(火)

スクールカウンセラーは、保護者や生徒の皆さんのお話を聴くために、学校にいます。
お話にいらしてみませんか？

スクールカウンセラー 予約の方法

スクールカウンセラーの予約表が職員室にあります。保護者の方も、生徒も、予約を取りたい方は、担任の先生に、「スクールカウンセラーと予約をとりたい」とお伝えください。担任の先生は、予約表のあいている時間に自由に書き込んでいただけたらと思います。よろしく願います。

